

公益財団法人国際文化フォーラム

2020 年度 事業報告及び附属明細書



2020年度は年明け早々からプログラムの実施についての変更を考慮せざるを得ない状況が続き、年度当初の4月7日に新型コロナウイルス感染拡大への対応として緊急事態宣言が発出されたことを受け、対面型の実施が困難であるという状況の中で、大半のプログラムをオンライン型による実施に踏み切りました。

しかし、オンライン型への単純な置き換えでは済まされないということから、プログラムの本質をどう捉えるのかという大きな課題に直面し、目標設定や成果として何を表現するのか、あるいは、参加者は何を実感として体験できるのか、ということ熟慮、熟考する機会に遭遇した1年となりました。

2020年度の事業計画にあたっては、当財団の新たな10年である第5期を「資質・能力の育成2.0」とし、多様性・複雑性の社会で若い人たちが新たな価値の創造をするために私たちに何ができるか、という問いを立ててみたいという方向性を提示いたしました。

自分自身の内面と向き合い、環境問題や社会の仕組みも含めた人間社会の複雑さを体験し、多様性に満ちた社会を生き抜く力を育む機会をどの程度創出することができたか、評価は簡単ではありません。いずれのプログラムも講師やファシリテーターなどの専門家そして参加者とともに手探りながらつくりあげていったということに加え、プログラムの成果発表を閲覧して下さった多くの皆さんからは、新たな環境でのプログラムの実施に興味関心をもっていただき様々な感想や意見をいただきました。このような体験は何よりの収穫であったと思っています。

一方で、コロナ禍が長期化する中、引き続きオンライン型プログラムの可能性を探り、プログラムを構築していくためには2020年度の実績に甘んじてはられないという緊張感も生まれ、より一層物事の本質を追求することの必要性を痛感する結果となったと考えております。個別のプログラムについては、担当職員それぞれが報告を記載しております。

なお、当財団の事業所としての運営につきましては、東京都が新型コロナウイルス感染症等の拡大防止および緊急時における企業の事業継続対策「事業継続緊急対策(テレワーク)助成金」(2020年3月6日開始)により、在宅勤務が円滑に行われるよう環境を整えることができました。引き続き、在宅勤務を原則として、新型コロナウイルス感染拡大への対応をとってまいります。

2020年度に実施した事業の一覧

- ア. 国内外の児童・青少年並びに教育関係者向けの研修、ワークショップ、セミナー、シンポジウム事業
 - 1. 小中高校の教師研修の実施
 - 2. 「学校のソトでうでだめし」プロジェクト
 - 3. 中高校生、教師、保護者を対象とした隣語講座の実施
 - 4. 学生を対象としたインタビュープロジェクト・ときめき取材記
 - 5. ネットワーク構築と情報収集

- イ. ガイドライン・教材・視聴覚資料・授業案の開発や提供事業
 - 1. 日本の文化と人びと紹介サイト「くりっくにつぼん」の運営
 - 2. ロシアの日本語教材制作
 - 3. ネットワーク構築と情報収集

- ウ. 互いのことばを学ぶ国内外の児童及び青少年並びに教育関係者の交流事業
 - 1. 日韓の中高校生交流プログラムの実施
 - 2. 日韓の校長交流プログラムの実施
 - 3. 日露の教師・生徒交流プログラムの実施
 - 4. 多言語・多文化交流プログラム「パフォーマンス合宿」の実施
 - 5. ネットワーク構築と情報収集

- エ. 広報事業
 - 1. 事業報告書『CoReCa』の発行
 - 2. デジタル媒体を使った広報
 - 3. ネットワーク構築と情報収集

公1 我が国と諸外国の児童及び青少年を対象とした外国語教育、並びに多様な文化についての理解を促進するとともに、教育及び文化の交流を推進する事業

予算額 115,337,244 円／実績額 89,873,975 円／収支差額 25,463,269 円

内、公益目的事業共通費用(給料手当、福利厚生費、消耗品費、賃借料など)

予算額 78,093,966 円／実績額 66,890,485 円／収支差額 11,203,481 円

ア：国内外の児童・青少年並びに教育関係者向けの研修、ワークショップ、セミナー、シンポジウム事業
 予算額 11,130,284 円／実績額 5,613,254 円／収支差額 5,517,030 円

事業区分 1. 小中高校の教師研修の実施

事業名	学びをデザインする教師研修 探究するオンラインカフェ [掘りさげ編] - 「学びの質」を語ろう				
収支	予算額	1,549,027 円	実績額	237,187 円	収支差額 1,311,840 円
実績事由	対面型のワークショップをすべて中止したため会場費や旅費交通費などが発生しなかった。また、教育関係者自身が探究的な学びを体験するワークショップは、「学校のソトでうでだめし」事業の「テnderさんのその辺のもので生きる」オンライン講座に集約し中高生～大人向けのプログラムとして再構成して実施したため、執行率が大幅に下がった。				
事業概要	<p>子どもたちの探究的な学びが学校教育で継続的かつ意味ある形で実施されていくためのサポートを行うと同時に、教育に関わる財団としては探究的な学びの理論と実践についての情報をアップデートし、学校教育現場の現在地を確認する機会となっている。</p> <p>探究的な学びをデザインするワークショップを実施してきて、参加者が課題として挙げるが多かったのが探究的な学びをどう評価すればいいのかという点である。本ワークショップでは、評価の前提となる「学びの質」について掘りさげた。1日目は主に理論的なインプットを行い、2日目は参加者の実践に照らし合わせながら「学びの質」を言語化し、参加者間でのディスカッションを行った。</p> <p>理論的なインプットでは、講師の稲垣教授が、探究的な学びの質を考察する視点を、①子どもたちがどういう気持ちで取り組んでいるか(情意面)、②活動のプロセスが質の高いものになっているか、③思考が深まっているかの3点に整理し、それぞれの質を支えるアプローチとして、①内発的な動機付けとオーナーシップ(自分でこの学習を進めているという思いをもつこと)、②情報活用能力と創造的対話、③教科の見方・考え方、真正性、メタ認知を挙げた。さらに①～③の質について、専門家としての視点、視点を支える知識、それらを子どもたちと共有できる形にするワーディングの3ステップで考えていくフレームワークを提示。その後、ゲストスピーカーの探究的な学びの実践をフレームワークを使って分析し、フレームの考え方について理解を深めた。2日目は、参加者がそれぞれの実践の学びの質をフレームワークで言語化し、参加者どうしのディスカッションを通して考察を深めた。</p> <p>参加者からは、「探究の質を高める多様なアプローチを知ることができた」「学びの質を問う姿勢を学んだ」「学びの質を伝える表現をさらに学びたい」などのコメントが寄せられた。</p>				
対象	小中高校・大学の教員				
講師等	講師：稲垣 忠・東北学院大学文学部教授(教育工学、情報教育、授業設計) ゲストスピーカー：渡邊光輝・お茶の水女子大学附属中学校 国語科教諭				
実施・参加実績	実施日		参加人数		
	第1回	2020年8月23日	第1回	22人	
	第2回	2020年9月6日	計2回	11人	延べ33人

実施形態	オンライン（ZOOM）
参加費等	無料
実施主体	主催 TJJF
助成	無
協力	無

事業区分	2. 「学校のソトでうでだめし」プロジェクト				
事業名	テンダーさんの「その辺のもので生きる」オンライン講座等				
収 支	予算額	5,077,800 円	実績額	2,430,580 円	収支差額 2,647,220 円
実績事由	新型コロナウイルス感染拡大により 1) の対面型プログラムは中止した。2) のテンダー氏によるワークショップをオンラインによって実施したため大幅に予算を下回った。				
事業概要	<p>1) コンテンポラリーダンス創作・表現のワークショップは実施しなかった。</p> <p>2) テンダーさんの「その辺のもので生きる」オンライン講座</p> <p>国内外の参加者が多様なもの見かたやありかたに触れることで、オルタナティブな視点や、表現方法、技術、行動手段などを獲得し醸成していく契機となることをめざしてスタートした。講師のテンダー氏は環境活動家であるが、環境問題と社会・政治・経済の課題、文化の影響、個人の暮らしを地続きの相互に作用しあうものと捉えている。その視座から環境問題や社会の搾取・格差の問題の構造を捉え、解決する方法を研究し、国や地域、経済力に関係なく多くの人を取り組みやすい技術や仕組みにデザインして世界の人たちと共有している。この講座では、テンダー氏が実践・提案している技術群やもの見かたなどを 14 回シリーズで体験する。2020 年度は以下の 2 講座を実施した。</p> <p>1. アルミ缶を使い倒そう</p> <p>ゴミとして捨てられるアルミ缶を使って調理可能な火力のあるアルコールストーブをつくりながら、柔らかくて錆びにくいため個人でさまざまなものに加工しやすいアルミニウムの特性や、素材の特性を踏まえた上で用途に合った道具を自作する方法を共有。講師の問いを手がかりに自ら観察、思考、実験のプロセスを繰り返すことで、講座終了後も金属の廃材を自分や社会に必要なものにつくりかえていける技術や知識、発想を得てもらえるようデザインした。また、社会的地位に関係なく誰もが手に入れられるゴミが形状を変えるだけで価値をもち得ること（同機能のアルコールストーブのアウトドアショップでの販売価格は 9,000 円、アルミ缶を溶かして固めた塊から金型をつくと 50 万円）、廃材から自分や社会にとって必要なものを自作することで消費社会への過度の依存から自立する可能性が開けること、廃材が価値をもつ仕組みをつくるのが環境問題の解決にもなることを実感してもらう場となった。</p> <p>2. 棒と板だけで火を起こそう</p> <p>もみぎり式の火起こしを体験。小学校の理科で習う燃焼の三要素（酸素、温度、燃えるもの）をもとに、今三要素のうちなにが起きていてなにが足りないのか観察し、単元によって切り取られた学びを自分たちの生活に密接に結びつけた総合的な学びとして捉えなおした。体力は有限だからこそ、視覚・嗅覚・触覚・聴覚を使って目の前の状況と自分の体の使い方をつぶさに観察し、知識を動員して観察結果と照らし合わせ、じっくり思考を組み立ててから試すことの重要性を体感する時間となった。</p>				
対 象	国内外の中高生、大学生、社会人 *教育関係者向けの探究型のワークショップも本講座に集約し、中高生から大人までを対象としたプログラム構成とした。				
講師等	講師・企画協力 テンダー(小崎悠太)氏(一般社団法人その辺のもので生きる代表理事)				

実施・参加実績	実施日	参加人数
	1. 2021年2月4日 2. 2021年3月14日 計2回	1. 26人 2. 23人 計49人
実施形態	オンライン（講座実施 ZOOM、講座参加者用コミュニティ Discord）	
参加費等	1. 中高生 1,000 円、大学生 1,500 円、社会人 3,000 円 2. 中高生 1,000 円、大学生 1,500 円、社会人 2,500 円 * いずれも海外在住の中高・大学生は無料、社会人は 1,000 円	
実施主体	主催 TJF	
助成	無	
協力	無	

事業区分 3. 中高校生、教師、保護者を対象とした隣語講座の実施						
事業名	りんごをかじろう隣語講座、カードゲーム OMP 開発プロジェクト					
収 支	予算額	692,590 円	実績額	924 円	収支差額	691,666 円
実績事由	新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、オンラインによる協力と調査以外は実施しなかった。					
事業概要	<p>①りんごをかじろう隣語講座、</p> <p>1) 世宗学堂韓国語講座での協力 オンラインでの実施が決定し、内容面での協力はオンライン上で行った。</p> <p>2) 拓大一高韓国語講座内容面での協力</p> <p>3) 高校での隣語オリエンテーション</p> <p>②カードゲーム OMP (オノマトペカードゲーム) 開発プロジェクト コロナ禍で来日する外国人が見込まれない中、対面型交流ツールとしてのカードゲーム制作を再検討する必要があると考え、全国の国際交流協会等に調査を実施。結果、新たな外国人の来日が見込まれない中、事業の目的である「日本語話者が来日する外国人と日本語で交流する」を実現することは難しく、カードゲームを活用するには、交流プログラムの企画とあわせて展開することが必要ということがわかった。当面の間は事業を継続することは困難であるという決断にいたる。</p>					
対 象	① 1) 中高生 ② 日本語話者と来日する日本語が話せないひと					
講師等	① 1) 鄭賢熙（世宗学堂）					
実施・参加実績	実施日	参加人数				
	① 1) 2020年6月20日から2021年3月6日 全22回	① 1) 25名（中学生9名、高校生16名）				
実施形態	① 1) オンライン（電話およびテレビ会議システム Zoom）					
参加費等	無料					
実施主体	① 1) 駐日韓国文化院 世宗学堂 ② TJF					
助成	無					
協力	無					

事業区分	4. 学生を対象としたインタビュープロジェクト・ときめき取材記					
事業名	「ときめき取材記」プロジェクト					
収 支	予算額	1,477,867 円	実績額	1,391,280 円	収支差額	86,587 円
実績事由	予定していた 2 ヶ所での対面でのワークショップを、内容を見直しオンラインで実施したことで費用が減少した。					
事業概要	<p>①「ときめき取材記」実践ワークショップの実施。 新型コロナウイルス感染拡大の影響で、当初予定していた対面での実践ワークショップをオンラインに切り替えて実施した。 ワークショップは 2 部構成とし、第 1 部はインタビューの意義についての話と意見交換、第 2 部は実践報告とディスカッションを行った。</p> <p>②「ときめき取材記」実践校 新たに秋田大学、法政大学が取り組み、2020 年度は計 28 本の記事がウェブサイトに掲載された。</p> <p>③報告書の作成 今後取り組む学校にガイドブックとして役立ててもらうことを視野に入れ、これまでの実践のプロセスを詳細にまとめた。</p>					
対 象	①プロジェクトに関心をもっている教師を対象に、教育関係者 ②大学生					
講師等	①塩野米松(作家)、三代純平(武蔵野美術大学准教授)、義永美央子(大阪大学教授)					
実施・参加実績	実施日			参加人数		
	①2020 年 12 月 26 日 ②通年			①12 人 ②5 校		
実施形態	①オンライン (ZOOM) ②オンライン ③印刷物・PDF					
参加費等	無					
実施主体	①TJF ②ニュージーランドカンタベリー大学、大阪大学、法政大学、武蔵野美術大学、横浜国立大学					
助成	無					
協力	無					

事業区分	5. ネットワーク構築と情報収集					
事業名	アの事業に関するネットワーク構築と情報収集のための活動					
収 支	予算額	2,333,000 円	実績額	1,553,283 円	収支差額	779,717 円
実績事由	新型コロナウイルス感染拡大に伴い、外部機関の大会・セミナー等はオンラインでの開催に変更され、出張を伴う参加機会がなかったため、予算を大幅に下回る結果となった。					
事業概要	アの事業に関連する学会、団体等への会費等支出に加え、情報収集と TJF 事業の広報に努めた。また、職員の学ぶ機会として、課題図書を取り上げた読書会、外部識者によるセミナー、映像・オンライン資料による学習の機会を設けた。					

イ：ガイドライン・教材・視聴覚資料・授業案の開発や提供事業
 予算額 4,789,000 円／実績額 1,683,315 円／収支差額 3,105,685 円

事業区分	1. 日本の文化と人びと紹介サイト「くりっくにっぽん」の運営					
事業名	「くりっくにっぽん」の運営 –くりっくにっぽん活用術の充実–					
収 支	予算額	1,210,000 円	実績額	991,380 円	収支差額	218,620 円
実績事由	配信数は予定より増えたが、当初予定していた翻訳料が不要となった。					
事業概要	「くりっくにっぽん」「ときめき取材記」ウェブサイトのコンテンツを活用し、思考力や文化理解を深める日本語の学習活動案をメルマガ「Click Nippon News」（日英 2 言語）で毎月配信した。世界的な新型コロナウイルス感染拡大により各地で休校となる中、各地の先生から寄せられたオンライン授業に役立つ活動案を掲載した臨時号を配信した。					
対 象	おもに英語圏の小中高校の日本語教師					
おもな執筆者	西村パーク葉子（元豪州ニューサウスウェールズ州教育省）					
実施・参加実績	実施日			参加人数		
	毎月第 3 木曜日に定期号を配信した。 4、5、6 月に月 1 回、計 3 回の臨時号を配信した。			登録者約 820 名		
実施形態	メールによる配信					

事業区分	2. ロシアの日本語教材制作					
事業名	ロシアの初中等向け日本語教材制作					
収 支	予算額	2,669,000 円	実績額	844 円	収支差額	2,668,156 円
実績事由	新型コロナウイルス感染拡大の影響により本事業の遂行が不可能と判断したため、実施を中止し、尚友倶楽部からの助成金を返上した。844 円の支出は諸連絡のために派生した通信費。					
事業概要	新型コロナウイルス感染拡大の影響により教材制作の主體的な役割を担う予定だったノボシビルスク・北海道文化センターは 2020 年度の日本との交流プログラムをすべて中止し、日本語教育部門のオンラインへの切り替え業務に追われ、自前の事業も大幅に縮小するなど運営に大きな変化が起きたことにより、本計画を中止することとした。 尚、同センターは 2021 年度から「シベリア・北海道」観光・姉妹都市交流センターに組織が改変され、姉妹都市である札幌市との交流・観光業務が中心業務になり、日本語教材制作については業務範囲、人力の両面から再開は不可能という状況になっている。					
対 象	ロシアにおける初中等の日本語教育関係者					
実施・参加実績	実施日			参加人数		
	実施せず。					
実施主体	TJF					
助成	尚友倶楽部					

事業区分	3. ネットワークの構築と情報収集					
事業名	イの事業に関するネットワーク構築と情報収集のための活動					
収 支	予算額	910,000 円	実績額	691,091 円	収支差額	218,909 円
実績事由	新型コロナウイルス感染拡大に伴い、外部機関の大会・セミナー等への出張、参加機会がなかったため、予算を大幅に下回る結果となった。					
事業概要	イの事業に関連する団体等への会費支出に加え、情報収集と TJF 事業の広報に努めた。					

ウ. 互いのことを学ぶ国内外の児童及び青少年並びに教育関係者の交流事業
 予算額 13,140,329 円／実績額 8,084,631 円／収支差額 5,055,698 円

事業区分 1. 日韓の中高校生交流プログラムの実施						
事業名	日韓のことを学ぶ中高校生交流プログラム ダンスダンスダンス Online					
収 支	予算額	5,453,475 円	実績額	1,763,845 円	収支差額	3,689,630 円
実績事由	新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、韓国ソウルに渡航して実施する合宿型の交流から、オンライン交流へと変更した。特に VR での交流は、レンタルできる機器の性能上、同時に活動できる人数に制限があるため日韓ともにそれぞれ当初計画の 20 名から 9 名に定員を制限。参加者数を減らし、会議費や旅費にかかる経費も発生しなかったことから年度当初の予算額よりも大幅に費用が減少した。					
事業概要	日本で韓国語を学ぶ中高校生と韓国で日本語を学ぶ中高校生のダンスをテーマとする交流プログラムの 9 回目。新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、初の試みとして、スマートフォンや VR 機器等を活用したプログラムに変更して実施。日韓の高校生 17 名（日本側 8 名、韓国側 9 名）が参加し、日韓混成の三つのチームにわかれて、ダンス動画作品を制作、発表するという内容で開催。発表は、チームの自己紹介、ダンス動画作品（1 分 30 秒）、プロダンサーからの質問の流れで進み、オンラインの見学者が 3 チームの中から、最も魅力を感じたチームに投票して優勝チームを決めた。					
対 象	日本で韓国語を学ぶ中高校生と韓国で日本語を学ぶ中高校生（中学生の応募は無し）					
講師等	山泉貴弘（映像ディレクター）、星音（バーチャル Youtuber）、斎藤宣世（ダンサー）					
実施・参加実績	実施日			参加人数		
	2020 年 10 月 25 日、11 月 1 日、15 日、20 日、21 日、22 日、23 日（計 7 回）			17 名 ・韓国語を学ぶ日本の高校生 京都府、岡山県、広島県より 8 名 ・日本語を学ぶ韓国の高校生 江原道、ソウル市、仁川市より 9 名		
実施形態	オンライン（バーチャルリアリティ／VRchat、テレビ会議システム／Zoom）					
参加費等	無料					
実施主体	秀林文化財団、TJF					
助成	無					
協力	実施：秀林外語専門学校、韓国日本語教育研究会 協力：高等学校韓国朝鮮語教育ネットワーク 後援：国際交流基金ソウル日本文化センター					

事業区分	2. 日韓の校長交流プログラムの実施					
事業名	日韓校長交流フォローアッププログラム					
収 支	予算額	50,000 円	実績額	9,824 円	収支差額	40,176 円
実績事由	事業中止に伴い、共催団体である韓国国際交流財団より受けた事業費を返金する際に、海外送金手数料及び、関係者へのお知らせ等郵送代を支出した。					
事業概要	共催団体である韓国国際交流財団より受けた事業費の繰越金で日韓の学校間交流の進展を後押しするため、日本の高等学校関係者が韓国高等学校関係者を訪問する交通費補助を行う事業を計画していた。しかし、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、意向のあった学校からも申請者が現れず事業は実施しなかった。					
対 象	日本の高等学校校長および関係者					
講師等	無					
実施・参加実績	実施日		参加人数			
	実施しなかった		無			
実施主体	TJF					
助成・共催	韓国国際交流財団 実施しなかったため、助成金を返還した。					

事業区分	3. 日露交流プログラムの実施					
事業名	日露の教師・生徒交流プログラム					
収 支	予算額	2,496,000 円	実績額	927,972 円	収支差額	1,568,028 円
実績事由	交流事業が中止となったため、教材寄贈に係る経費のみ執行。					
事業概要	<p>新型コロナウイルス感染拡大の影響により年度当初の事業計画①～③は中止した。</p> <p>①極東大会への参加とセミナーの実施</p> <p>②極東地域日本語教育事情調査</p> <p>③日本語教材作成プロジェクトのためのロシア招聘</p> <p>④極東地域日本語教育実施校への教材寄贈</p> <p>極東ロシアの 11 の学校に対し、計 437 冊の日本語図書・教材を寄贈した。</p> <p style="text-align: right;">※学校は重複なし</p>					
対 象	日本語教育を実施している極東ロシアの初等中等学校					
実施・参加実績	実施日		参加人数			
	【第 1 陣】 3 月申請、10 月に発送		【第 1 陣】 ウラジオストク、ハバロフスク、イルクーツク、アンガルスク、コムソモリスク 計 6 校			
	【第 2 陣】 11 月申請、12 月に発送		【第 2 陣】 ハバロフスク、ウラジオストク 計 2 校			
	【第 3 陣】 1 月申請、3 月に発送		【第 3 陣】 ユジノサハリンスク 計 3 校			
実施形態	紛失、不達、税関留めなどのトラブルを回避するため、船便を利用して日本（凡人社が集本・梱包）から小分けして発送し、協力者の下郡健志専門家（国際交流基金派遣）がウラジオストクですべてを受け取ったあと各学校に転送した。					
参加費等	なし					
実施主体	TJF					
助成	一般社団法人尚友倶楽部					
協力	国際交流基金派遣日本語専門家下郡健志氏					

事業区分	4. 多言語・多文化交流プログラム「パフォーマンス合宿」の実施					
事業名	多言語・多文化交流「パフォーマンス合宿」					
収 支	予算額	4,490,854 円	実績額	4,780,061 円	収支差額	△289,207 円
実績事由	年度当初、対面による東京合宿及び広島合宿の 2 回を計画していたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、オンラインに切り替えて実施。さらに、オンラインの演劇的アプローチの試みとして 2021 年春に 1 回を追加して実施したため、予算を上回る執行額となった。					
事業概要	<p>①夏プログラム (2020 年 8 月) 夏休みに計画した広島合宿の実施内容をオンライン実施に切り替え、ファシリテーター (振付家・ダンサー、美術家、舞台音楽家) とともに、パフォーマンスプログラムを開発し、映像編集の技術を生かした作品づくりを実現。新たに映像専門家も運営チームに加わり、オンラインによる発表会を実施した。</p> <p>②秋プログラム (2020 年 11 月) 夏プログラムの試みから得られた実績を生かし、夏プログラムのファシリテーターとともに実施。オンラインによる発表会を実施した。</p> <p>③春プログラム (2021 年 3 月) 夏、秋のプログラムの実績を基に、演劇的要素をオンラインで試みた。演劇的な「場の共有」を解決するために、VR を取り入れた。さらに、日本とアメリカ (ニューヨーク) の演劇専門家、特にアメリカの教育演劇界で活躍する多文化演劇ファシリテーターを初起用した。オンラインによる発表会を実施した。</p> <p>そのほか、イミグレーション・ミュージアム・東京のオンライン美術館の団体展「IMM 東京 2020 オンライン美術館・わたしたちはみえているー日本に暮らす海外ルーツの人びと」に「パフォーマンス合宿」を出展した。 (会期 2020 年 12 月 5 日から 2021 年 3 月 14 日)</p>					
対 象	<p>①夏プログラム：日本国内の高校生及び海外で日本語を学んでいる高校生 ②秋プログラム：日本国内の高校生及び海外で日本語を学んでいる高校生 ③春プログラム：日本国内の高校生</p>					
講師等	<p>①夏プログラムのファシリテーター等運営チーム 田畑真希 (振付家・ダンサー)、棚川寛子 (舞台音楽家)、水内貴英 (美術家)、山泉貴弘 (映像ディレクター)、大学生サポーター1名 (合宿参加経験者)、大学院生サポーター1名</p> <p>②秋プログラムのファシリテーター等運営チーム 田畑真希 (振付家・ダンサー)、棚川寛子 (舞台音楽家)、水内貴英 (美術家)、山泉貴弘 (映像ディレクター)、高校生サポーター3名 (合宿参加経験者)</p> <p>③春プログラムのファシリテーター等運営チーム 柏木俊彦 (演出家・俳優)、田畑真希 (振付家・ダンサー)、撫子 Vtuber 星音 (バーチャル Youtuber/ナレーター/デザイナー)、森永明日夏 (舞台俳優・ティーチングアーティスト・ファシリテーター NY 在住)、山泉貴弘 (映像ディレクター)、高校生サポーター3名 (合宿参加経験者)</p>					

実施・参加実績	実施日	参加人数
	<p>①夏プログラム： 2020年8月15日、16日、22日、23日、30日（計5回）</p> <p>②秋プログラム： 2020年11月15日、22日、28日、29日、12月12日、28日（計6回）</p> <p>③春プログラム： 3月21日、30日、31日、4月3日、4日、11日（計6回）</p>	<p>①夏プログラム： インド、オーストラリア、韓国、シンガポール、タイ、中国、日本、フィリピン、ロシア、アフリカ地域などにルーツや在住経験を持つ多様な高校生20名（日本から15名、海外から5名） ※発表会観覧者 約60名</p> <p>②秋プログラム： 中国（香港、上海、武漢）、イギリス、韓国、マレーシア、日本につながりや滞在経験をもつ多様な高校生18名（日本在住9名、海外在住9名） ※発表会観覧者 約40名</p> <p>③春プログラム： 日本在住の多様な高校生13名 ※発表会観覧者 約110名</p>
実施形態	オンライン	
参加費等	無料	
実施主体	TJF	
助成	なし	
協力	②秋プログラム カナガワビエンナーレ国際児童画展(主催：神奈川県、あーすぷらざ)	

事業区分	5. ネットワーク構築と情報収集					
事業名	ウの事業に関するネットワーク構築と情報収集のための活動					
収 支	予算額	650,000 円	実績額	602,929 円	収支差額	47,071 円
実績事由	ウの事業に関連する情報収集等に伴う資料収集を予定通り行った。					
事業概要	ウの事業に関連する学習機会のための資料収集等を行った。					

エ. 広報事業

予算額 8,183,665 円／実績額 7,602,290 円／収支差額 581,375 円

事業区分	1. 事業報告書『CoReCa』の発行					
事業名	事業報告書『CoReCa』の作成					
収 支	予算額	4,561,728 円	実績額	4,116,491 円	収支差額	445,237 円
実績事由	印刷代が想定額を下回った。					
事業概要	2019 年度に実施した事業をレポートした。					
対 象	TJF 理事、評議員、寄付者、事業協力者、事業参加者					
実 績	発行日			発行部数		
	2021 年 3 月発行			4,100 部（仕様：A4 変型、38 ページ）		
実施形態	冊子形式での発行及びウェブサイト上での発信					

事業区分	2. デジタル媒体を使った広報					
事業名	デジタル媒体を使った広報の実施					
収 支	予算額	3,141,937 円	実績額	2,905,109 円	収支差額	236,828 円
実績事由	IT 環境整備の中で、パソコンをリモート操作するアプリ「Splash Top」の導入と、パソコンサポート契約の導入を取りやめたことにより費用が減少した。					
事業概要	<p>①メルマガ「わやわや」の配信 毎月 1 回の定期号、臨時増刊号 8 回を配信。新春読者プレゼントを実施（TJF の事業協力者の著書 3 冊を各 5 名抽選）</p> <p>②ウェブサイトの運営 お知らせ記事 28 本（事業の報告と募集）を掲載するほか、英語・韓国語・中国語・中国語版を更新</p> <p>③TJF Facebook page の運営 季節のカバー画像を更新</p> <p>④IT 機器管理・各種アプリケーションの利用 新電話システム用 iPhone 導入、WEB 会議システム「Zoom」の増設など</p>					
対 象	①事業協力者、参加者をはじめ TJF に関心をもっている方々					
実施・実績	実施日			参加人数		
	①毎月第 3 水曜日、臨時増刊号 8 回 （2020 年 7 月、10 月、11 月、12 月、 2021 年 1 月、2 月、3 月 2 回）			登録者約 2,500 名		
実施形態	①メール ②ウェブサイト					

事業区分 3. ネットワーク構築と情報収集						
事業名	エの事業に関するネットワーク構築と情報収集のための活動					
収 支	予算額	480,000 円	実績額	580,690 円	収支差額	△100,690 円
実績事由	情報収集等に伴う調査費用が予算を上回った。					
事業概要	エの事業に関連する情報収集並びに調査研究を行った。					